



2021 年度冬号（第 12 号）

府大生∞歴彩館 コラボで探る京都学

——「見応えのある展示」をつくるために

京都府立京都学・歴彩館で12月11日～1月9日の間、「第四回 府大生∞歴彩館 コラボで探る京都学」が開催されました。この展示は文学部の各学科と歴彩館とのコラボレーションの成果を公開するもので、学生たちが歴彩館の資料の豊かさを多様な角度から紹介しました。

歴史学科からは、歴彩館の資料を使って研究する授業、「日本文化史研究」を受講する3回生13名が参加しました。受講生は4班に分かれ、それぞれ決定したテーマごとに、資料の選定・解説文の執筆から、展示用のパネル製作まですべてを手がけました。



▲パネル製作の様子

「一 出産のかたち いま・むかし」では、胞衣（えな）納め・妊産婦の食べ物・近代産婆の登場・自宅出産から施設出産へ、という4つのテーマを挙げ、江戸時代から昭和30年代頃までの出産を取り巻く環境の変遷を紹介しました。

「二 上菓子屋が開いたカフェ」では、上菓子屋であった鑑屋（かぎや）が近代に京都初のカフェである「カギヤカフェ」を開いた過程を追い、和菓子屋



▲展示作業の様子

とカフェという二つの顔を持ち合わせた鑑屋の歴史を解説しました。

「三 京の街に電気が流れる」では、近代京都の電気事業の展開を概観し、特に大正期以降、家庭への電灯の普及をはじめとして、電熱器具・ラジオなど多くの家庭用電気製品が販売されるようになった様子を解説しました。

「四 京都と能」では、様々な勧進能の資料を中心に、室町時代の京都で有力であった観世座が勧進能を行って能を商業的に発展させた様子や、その後の中断・復興の歴史を追い、京都と能の関わりについて紹介しました。

展示を担当した受講生は、歴彩館の方々や学科の先生方に指導を受けながら、4月からこの展示に向けて準備を行ってきました。感染症拡大の状況の中で思うように進まないこともありましたが、それぞれの班が課題を乗り越えながら努力し、時間をかけて完成させた展示でした。ご来場いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。（薄）

文化遺産学 フィールド実習 開講！



▲正源寺地藏堂の実測

11月14日、23日、28日の3日間にわたって文化遺産学フィールド実習が東近江市で行われ、今年度は歴史学科の2回生11名が参加しました。例年は8月上旬に開講される科目ですが今年度は11月に延期となり、3日間に分けた日帰りでの実施となりました。この科目では学生が考古学・歴史地理学・建築史学・文化情報学の各分野に分かれ、各自の関心に基づいたテーマを設定したうえで事前調査を行います。これを踏まえて、当日は現地で実測や聞き取りといった調査を実施しました。



▲勝堂古墳群の調査

1日目の午前には正眼寺や勝堂古墳群、東近江市埋蔵文化財センターを全員で見学し、午後からは佐生城や法堂寺の調査、中山道の実測、古文書整理と各分野に分かれて活動しました。2日目の午前には伊庭町で実地

調査をし、午後からは勧請縄や村組織、祭礼、重要文化的景観の町づくりに関する聞き取りを行いました。

3日目は五個荘金堂町で重要伝統的建造物群保存地区の町づくりについての聞き取り調査、弘誓寺の見学を行いました。正源寺地藏堂では建築の実測方法や、石造物の3D実測の方法を学びました。実習後には調査内容をまとめて事後レポートを作成し、その一部が『歴史学科フィールド調査集報』に掲載される予定です。



▲大濱神社の見学

参加した学生からは「レポートの作成方法や調査の流れを学ぶことができた」、「先生方と話したり調査を行ったりしたことで、ゼミでの活動のイメージを持てた」といった感想があり、良い経験を得ることができました。文化遺産学コースに興味のある1回生は、来年度受講してみたいはいかがでしょうか。(鈴木)